Cerebellar blood perfusion is a diagnostic, but not a prognostic, marker for parkinsonian-dominant type multiple system atrophy

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 椎名, 健太 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003569

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2762 号

Cerebellar blood perfusion is a diagnostic, but not a prognostic, marker for parkinsonian-dominant type multiple system atrophy

多系統萎縮症のパーキンソニアン型において、小脳の血流は、予後予測能はないが、診断能のあるマーカーである

椎名 健太（しいな けんた）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、123I-IMP を用いた脳血流シンチグラフィ(IMP-SPECT)により検出される小脳の血流低下が多系統萎縮症(MSA)患者の診断に有用であり、しかもそれが患者の小脳症状の有無によらないことを示すとともに、小脳の血流低下が神経学的な予後に与える影響を検討した臨床的に意義のある論文である。
【新規性、創造性】近年 IMP-SPECT で小脳の機能障害を検出することが MSA の診断に有用であると報告されているが、患者の小脳症状の有無との関連性について検討されておらず、本論文はその点について詳細に検討しており新規性を有する。
【方法・研究倫理】MSA 患者 69 名を臨床症状から細かくグループ分けし、それぞれの群について IMP-SPECT の検査結果を後方視的に解析した。また神経予後および生命予後について診療録あるいは患者本人および患者家族から聞き取り調査を行った。解析結果について統計学的処理を行い、客観性を担保した。
【学術的意義】MSA はしばしばパーキンソン病など類縁疾患との鑑別が難しく、かつ進行が早く神経予後および生命予後が不良であるため早期診断マーカーおよび予後予測マーカーが必要である。IMP-SPECT を用いると臨床的な小脳症状がなくとも MSA の診断に有用であることが示され、また神経学的な予後に与える影響を検討された点で本論文は意義がある。
【考察・今後の発展】IMP-SPECT により検出される小脳の血流低下は、小脳症状を呈さない MSA 患者においても診断マーカーとして有用であるが、予後予測マーカーとしての意義は更なる検討が必要と考えられた。小脳と黒質-線条体の病態生理学的な関係性については不明な点が多く、今後の検討課題であり、本論文が病態解明の一助となることが期待される。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。